

山陰研究センター山本文庫目録稿(四)

田中則雄
(島根大学法文学部)

摘要

山陰研究センター蔵山本文庫は、島根県安来市母里の山本家に伝存した近世の古典籍群から成る。近世小説(特に実録)、漢詩文等々に加え、母里の地で営まれた俳諧の書にまで広くわたるものである。

キーワード…実録、近世小説

前号所収「山陰研究センター山本文庫目録稿(三)」に続き、諸芸(華道)、暦、辞書、教科書・手習本、俳諧、雑記・文書類に該当する書目を掲げる。本目録稿は、今号を以て完結する。

なお「目録稿(一)」において、本文庫の総点数を一二三三としたが、再調査の結果訂正して、一三六とする。

今回所掲の俳諧関係書の中には、地元母里で山本家の人々が関わった俳諧活動の跡を示すものが含まれている。

蔵書印(前号までの補遺)

今号所載の書目の中に、次の蔵書印が見出された。既に掲げた①、

山陰研究(第七号)二〇一四年十二月

⑤に続き⑥として掲げる。

⑥「雲/母/山本姓」、長方形、二・五×一・二糶(墨印)

目録



(二九) 諸芸(華道)

九二、古流苑

写本、一冊 二六・一×二七・九糶

(外) 古流苑(内) ナシ

丁数 一九・五

書写年時不明。近世後期。

(二〇) 曆

九三、「文化十二年乙亥寛政曆

写本、一冊 二五・三×一七・七糎

(外)(内) 文化十二年乙亥寛政曆

丁数 九・五

書写年時不明。近世後期。

九四、「改正刪補/日夜重宝」万曆両面鑑

刊、一枚 三〇・三×八〇・〇糎

(内)「改正刪補/日夜重宝」万曆両面鑑

刊記「文政六年/癸未重刻/大阪書林/心齋橋通南久太郎町・塩屋

季助/同所・塩屋長兵衛/合梓」

九五、「改正刪補/日夜重宝」万曆両面鑑

刊、一枚 三〇・一×一五四・〇糎

(内)「改正刪補/日夜重宝」万曆両面鑑

刊記「安政三年/丙辰重刻/大阪書林/堺筋通清水町北^え入・伊予屋

善兵衛」

他に次の刊記あり。「文政五壬午年七月御免/文政六癸未年七月刻成/

嘉永三庚戌年正月重刻/浪華板元/日本橋三丁北西側・伊予屋善兵

衛」。

(二一) 辞書

九六、「広益/増字」万宝節用集

刊本、一冊 二七・三×一九・〇糎

(外) 万宝節用集(後補墨書き)(内)「広益/増字」万宝節用集

丁数 九四

刊年不明。元禄末年頃か。

墨書き「山本屋」、後表紙見返し

九七、「増字/百倍」早引節用集

刊本、一冊 二二・八×一八・六糎

(外) 早引節用集(後補墨書き)(内)「増字/百倍」早引節用集

丁数 一七八・五

刊記「安永五丙申孟春吉旦/江戸通本町三丁目・西村源六/同本石

町十軒店・山崎金兵衛/大坂心齋橋安堂寺町・(破損)」

「板行目録/大坂順慶町心齋橋筋・柏原屋与左衛門」の広告あり。

蔵書印②(「雲州/母里/山本」径二・九糎)、冊首

九八、「増補/改正」早引節用集

刊本、一冊 一五・八×九・二糎

(外) なし(表紙欠)(内)「増補/改正」早引節用集

丁数 一三八

刊年不明。近世後期。

「和書版行目録/大阪順慶町心齋橋東^え入・柏原屋与左衛門」の広告

あり。

九九、「韻附／再訂」文選字引

刊本、一冊 一五・四×一〇・八糎

(外)「□附／□訂」文選字引(角書の□は破損。「韻附／再訂」とあるべきところ)(内)音韻授幼文選字引

丁数 一七八・五

刊記「原刻 享保甲寅歳／再刻 宝曆乙亥歳 天明癸卯歳／寛政八年丙辰歳／文化十一甲戌歳／京都二条書林・風月堂莊左衛門／尾州名護屋書林・同孫助／梓」

一〇〇、和玉図彙

刊本、一冊 二二・五×一六・〇糎

(外)字引(後補墨書き)(柱)和玉図彙

丁数 九一

刊年不明。近世中後期。

※首末に欠丁あり。

一〇一、増続大広益会玉篇大全

刊本、丑冊のみ存、一冊 二二・八×一六・三糎

(外)(上部破損)大広益会玉篇大全(内)増続大広益会玉篇大全

丁数 六六

最終冊存せず、元来の刊記等については不明。

刊年不明。近世後期。

蔵書印②(「雲州／母里／山本」径二・九糎)

蔵書印⑥(「雲／母／山本姓」二一・五×一・二糎)、いずれも冊首

墨書き「明治二十一年一月十五日／前田氏ヨリ求／山本氏」、冊首

※冊首に墨印、朱印あり(いずれも判読できず)。

※日本古典籍総合目録データベースには、毛利貞斎著、元禄四序、

元禄四版、享保二〇版等ありとする。

一〇二、明治いろは字引大全

刊本、一冊 二二・四×一八・一糎

(外)「新／撰」明治いろは字引大全(内)明治いろは字引大全

丁数 二九九

刊記「明治廿四年七月十二日印刷／明治廿四年七月十五日出版／版權所有／著作者 大阪府東成郡清堀村番外百四十三番屋敷・篠田正作／発行者 大阪市東区安土町四丁目三十八番屋敷・石田忠兵衛／印刷者 大阪市東区唐物町三丁目卅六番屋敷・星野熊吉／専売所 大阪市東区安土町四丁目三十八番屋敷・積善館／専売所 福岡県福岡市博多中島町七十六番地・同支店」

※銅版。

(一一二)教科書・手習本

一〇三、「大／増／補」新童子往来万世宝蔵

刊本、一冊 二六・〇×一八・二糎

(外)題簽残るが、文字はほとんど摺り切れている。(見返し)「大／

増／補」新童子往来万世宝蔵

丁数 一六六

刊記「安永四乙未歳冬十一月吉日／大坂書肆／心齋橋南式丁目・敦賀屋九兵衛版／心齋橋南四丁目・吉文字屋市兵衛版／同万三郎版」
吉文字屋市兵衛の広告あり。

蔵書印①「雲州／母里／山本屋」径三・〇糎、冊末
墨書き「中町／山本屋」、冊末

一〇四、小野篁歌字尽

刊本、一冊 二二・八×一五・八糎

(外)「大字／かな附」小野篁歌字尽(内)小野篁歌字尽

丁数 一二

刊記「書林／大坂心さい橋南(四丁目・正本屋小兵衛板)」
刊年不明。近世後期。

※錯簡あり(第七丁が冒頭に綴じ込まれている)。

一〇五、御手本

写本、一冊 二六・四×一八・〇糎

(外)御手本(内)ナシ

丁数 二八

前表紙に「寛政七年卯六月吉日 山本藤九良」とあり。

一〇六、〔手習本(出雲国十郡)〕

写本、一冊 二五・九×一八・四糎

(外)ナシ(表紙欠)(内)ナシ

丁数 一六・五

書写年時不明。近世後期。

一〇七、〔手習本(いろは歌ほか)〕

写本、一冊 二六・八×一八・四糎

(外)ナシ(表紙欠)(内)ナシ

丁数 三五

書写年時不明。近世後期。

一〇八、〔手習本(漢字)〕

写本、一冊 二六・〇×一八・〇糎

(外)ナシ(表紙欠)(内)ナシ

丁数 一〇

書写年時不明。近世後期。

一〇九、千字文

写本、一冊 二五・三×一七・三糎

(外)千字文(内)ナシ

丁数 六三

書写年時不明。近世後期。

墨書き「山本」、前表紙

一一〇、初登山手習教訓書

写本、一冊 二六・三×一八・三糎

(外)教訓書(内)初登山手習教訓書

丁数 八

書写年時不明。近世後期。

本文末尾に「山本屋伝蔵／山本屋八助／山本屋藤九郎」と記す。

墨書き「山本屋藤九郎」、冊首。「雲州／能儀郡母里 山本屋藤九郎／山本屋伝蔵」、後表紙。

(二三) 俳諧

一一一、付合小鏡

刊本、一冊 一五・〇×一〇・七糎

(外)「内」ナシ(扉)付合小鏡

丁数 一八八・五

刊記「延宝七己未年孟夏吉旦／寺町二条上町・寺田与平治板行」

一一二、秋雨集

刊本、一冊 二三・六×一六・七糎

(外)秋さめ(内)秋雨集

丁数 二一

享保乙卯(二十年)夏五月日跋

墨書き「寛政五己ノ三月有改／山本幸助」、冊首

※椎本芳室序に、市川氏呑湖は出雲から浪華に上り芳室に入門したが早世、彼の友人家島泉山の企画により追善集を刊行するものであるという。

一一三、「俳／諧」をだまき綱目

刊本、第二冊のみ存、一冊 一五・五×一〇・九糎

(外)「俳／諧」をだまき綱目(内)ナシ

丁数 一〇八

刊記「宝曆十一年辛巳正月／京寺町通五条上ル町・書林 田中庄兵衛」
※冊首に墨書き「梅窓」。

一一四、「賦餅何俳諧連歌ほか」

刊本、一冊 一三・六×二〇・一糎

(外)ナシ(原表紙欠)

丁数 四〇

刊年不明。近世中後期か。

※「賦餅何俳諧連歌」「恋何」「何智」「何房」「何籠」「糸何」「一字重博」「何笠」「何柱」「淀何」を収める。

一一五、登久世二古

刊本、一冊 二二・〇×一五・五糎

(外)登久世二古(内)ナシ

丁数 二三・五

刊記「俳諧集冊御摺物師／大阪心齋橋筋南本町・松井忠蔵」

己巳(文化六年)冬至序

※屋烏の三世八千房襲名記念集。

※雲州母里、冬曠、冬澤、冬栄等の句を収める。

一一六、一時集

刊本、坤冊のみ存、一冊 二二・七×一六・〇糎

(外)一時集(内)ナシ

丁数 六四・五

刊記「俳諧集冊／俳諧狂歌／御摺物 万板木師／御銀札 御印判

金銀銅石印/大阪心斎橋筋南本町・松井忠蔵」
明治期後印か。

※本書は、八千房屋烏編、文化七年刊(日本古典籍総合目録データ
ベース)。

※雲州母里、冬曠、冬澤等の句を収める。

一一七、「作/善」俳諧之連歌

刊本、一冊 一八・〇×一二・五纏

(外) ナシ(内)「作/善」俳諧之連歌

丁数 一〇

刊年不明。近世後期。

※一枝庵の追善。二世一枝庵編。

※冊首に墨書き「仲玄助/前田」。

※雲州母里、冬曠、冬澗、冬栄等の句を収める。

一一八、新式二十五箇条

写本、一冊 一五・三×一〇・九纏

(外) ナシ(内) 新式二十五箇条

丁数 九

書写年時不明。近世後期。

※一一九番と同じ体裁の写本。

※「俳諧の道とする事」「俳諧の二字の事」など。早稲田大学図書館・中
村俊定文庫蔵『はせを翁遺書』所収「俳諧新式二十五箇条」に該
当。ただし本文に異同あり。

一一九、蕉門千那俳諧之伝

写本、一冊 一五・二×一〇・九纏

(外) ナシ(内) 蕉門千那俳諧之伝

丁数 一三

書写年時不明。近世後期。

※一一八番と同じ体裁の写本。

※「脇第三振」「付合五品の事」など。

一二〇、文化六巳六月俳諧日記

写本、一冊 二一・四×一五・八纏

(外) 文化六巳六月俳諧日記(内) ナシ

丁数 一八

文化六、七年頃写

※「午ノ正月」の句を収める。午は文化七年か。

※「曠抜句」「沢抜句」「枯野集へ出ス」「東峯館抜句」「八千坊代替り賀頌」
「備中の宗匠五本亭万羽へ挨拶」等を収める。即ち母里の冬曠、冬
澤らに関係するもの。

一二一、八幡宮月並奉納題二月の部

写本、一冊 一五・四×二二・三纏

(外) 八幡宮月並奉納題二月の部(内) ナシ

丁数 二三

書写年時不明。近世後期。

一二二、奉燈吟

写本、一冊 一四・八×二一・六糎

(外) 奉燈吟(内) ナシ

丁数 一二

書写年時不明。近世後期。

※点印、添削あり。

一二三、はいかい福寿艸

写本、一冊 一四・五×二一・一糎

(外) はいかい福寿艸(内) ナシ

丁数 一二

書写年時不明。近世後期。

墨書き「此主/山本松醉(花押)」、後表紙

※本文末尾に次の如く記す(朱による書き入れ)。「右如印/猿月た

から山/雲山(朱印)/以何因縁左近太夫蟬の声」。

※前句付。点印、添削あり。松醉、関山、勇山等の名が見える。

一二四、春尽彩葉

写本、一冊 二五・八×一七・八糎

(外) 春尽彩葉(内) ナシ

丁数 一六

書写年時不明。近世後期。

※前半は切字の論。その末尾に次の如く記す。「右風興秘事粗如斯/

他見用捨/蕉翁在印」。その次の丁に「嶺松斎/冬栄」。後半は「春

尽彩盈」(扉)。句法、懐紙名目について。その末尾に次の如く記す。

「右一巻は秘決の要を抜出しあれば他見用捨/蕉翁在印」。その次の丁に「嶺松斎/冬栄」。

一二五、句合抜章集

写本、一冊 二四・五×二七・六糎

(外) 句合抜章集(内) ナシ

丁数 二

書写年時不明。近世後期。

※前表紙左下に「冬栄」。冬栄筆写か。

※冬澤、冬栄、冬暁の句を収める。

一二六、〔句合〕

写本、一冊 二六・二×一八・一糎

(外) ナシ(表紙欠)(内) ナシ

丁数 四

奥書「文化八年未二月廿五日於東峯館会席当座」

※冬甫、冬鷄、冬澤、冬曠(東峯館)、冬凋、冬暁、冬滌、冬栄、冬

民の句を収める。

一二七、半面歌仙

写本、一冊 一四・九×二二・五糎

(外) 半面歌仙(内) ナシ

丁数 八

書写年時不明。近世後期。

※点印あり。

(二四) 雑記・文書類

一二八、冬采聞書

写本、一冊 二六・三×一八・〇糶

(外) 冬采聞書(内) ナシ

丁数 七

書写年時不明。近世後期。

※雑記。一二九番とは別本。

一二九、冬采聞書

写本、一冊 二一・九×一四・八糶

(外) 冬采聞書(内) ナシ

丁数 二四

書写年時不明。近世後期。

※民間所伝の薬方、『徒然草』の語注など。一二八番とは別本。

一三〇、文化元年子暮古成酒代受取長^マ

写本、一冊 三六・四×一三・三糶

(外) 文化元年子暮古成酒代受取長^マ(内) ナシ

丁数 一〇

※前表紙に「甲子十有二月亥日 山本屋孫右衛門」。甲子は文化元年。

一三一、万延元庚申八月吉日申納田畑町屋舗年貢帳

写本、一冊 三五・〇×一三・〇糶

(外) 万延元庚申八月吉日申納田畑町屋舗年貢帳(内) ナシ

丁数 三

万延元年写。

※前表紙に「山本屋孫左衛門^マ」。

一三二、十五年十一月造り込帳

写本、一冊 三二・三×一三・〇糶

(外) 十五年十一月造り込帳(内) ナシ

丁数 三

書写年時不明。近世後期。

※醬油の作り込みについて、桶ごとに、日付、大豆、小麦、水、塩

の量を記す。

一三三、明治三年十月吉日醬油諸道具買入扣

写本、一冊 三六・五×一三・七糶

(外) 明治三年十月吉日醬油諸道具買入扣(内) ナシ

丁数 一一

明治三年写。

一三四、明治四年福来山仕入帳

写本、一冊 三五・六×一三・三糶

(外) 明治四年福来山仕入帳(内) ナシ

丁数 一六・五

前表紙に「辛未正月吉日」。辛未は明治四年。

一三五、卯とし打合仕出し帳

写本、一冊 三六・一×二三・三種

(外) 卯とし打合仕出し帳(内) ナシ

丁数 一二

書写年時不明。近世後期～明治初期。

※前表紙に墨書き「喜左衛門」。

一三六、「書簡の写し」

写本、一冊 二四・五×一六・六種

(外) ナシ(表紙欠)(内) ナシ

丁数 五

書写年時不明。明治期。

※山本庫太郎宛て山本保右衛門書簡。本文末に、「九月廿二日午四時

認メ／山本保右衛門／東京在 庫太郎殿」。

※罫の刷られた用箋を使用。

【付記】 本稿は、山陰研究センター基盤形成事業(二〇一四年度)の成果の一部である。

The List of Yamamoto-bunko owned by San-in Research Center(4)

TANAKA Norio

(Shimane University, Faculty of Law and Literature)

[Abstract]

Yamamoto-bunko owned by San-in Research Center is a collection of classical books inherited by the House of Yamamoto, in Mori, Yasugi City, Shimane Prefecture. It includes the novels written in the Edo period (especially *jitsuroku*), the books of Chinese poetry, and those of *haikai* produced in the Mori district.

Keywords : *jitsuroku*, the novels written in the Edo period